

浸水想定区域図の発表と洪水ハザードマップについて



保木 利一 議員

問 昭和28年の台風13号による大洪水の発生した雨量と同程度の降雨(百年確率)を基に、本年6月に示された安曇川浸水想定区域図を見ると、朽木・安曇川・新旭地区の大半が浸水すると想定されているが、被害額はどれ程になるのか。

答 防災監 県の安曇川洪水に対する被害総額の予想は約1千950億円です。安曇川以外の河川の浸水想定区域図は19年度〜20年度に公表される

市内には10年に1度程度降る雨でも破壊するといわれる危険な川が多いが、安曇川以外の浸水想定区域図はいつ頃発表されるのか。 これら浸水想定図に基づき、住民を安全な場所へ避難誘導するハザードマップはいつ作るのか。 作成されたハザードマップによる、自主防災組織や市民への周知、



予定です。従って市の洪水ハザードマップは、これらを総合し20年度に作成を予定しています。市民への周知につきましては、ハザードマップの全戸配布に併せ、区長会議や出前講座、地域の防災マップの作成指導等を通じ徹底したいと考えています。流域治水活動については、県の流域治水検討会の結果を踏まえ、土木交通部との連携を図り実施していきます。

中江藤樹先生生誕四百年祭と高島市観光の総合発展策を問う



林 弘 議員

問 来年度、平成20年は日本陽明学の祖であり、近江聖人と呼ばれ慕われた高島市民の誇りである「中江藤樹先生生誕四百年祭」の年となる。現在文化ゾーンと呼ばれている藤樹神社を中心としたその周辺には、藤樹先生縁の施設が点在し、観光地としても人気上昇中である。高島市総合計画においても観光振興があり、歴史文化資源の掘り起し、観光交通イベントの推進、観光拠点施設の連携強化、観光プロデュース機能の充実、来訪者受入体制の強化等々があげられ、高島市観光振興の要素が集約されている。この四百年祭を起爆剤として、観光協会の団

結と発展を要望するとともに、全市民の参画と協力による高島市観光の総合発展計画を問う。

答 営業開発室長 「高島流」の観光振興を目指して

四百年祭の実施を視野に入れ、今春には駅を拠点として、「藤樹先生の教えに触れるコース」をモデルツアーとしてJR駅置きパンフ



藤樹先生 生誕400年祭マスコットキャラクター「よえもん君」

レットに掲載、中江藤樹生誕地としてのPRに努めています。また、市民の皆様方より、四百年祭を契機としたキャラクターグッズや土産品、さらには調理師会の皆様から地元食材を使ったオリジナル弁当の創作についてご提案いただいています。高島市の観光が目指すところは、地域自らが地域資源をマネジメントし、地域ブランド力を高め、経済の活性化に繋げていくことです。今後とも、こうした「高島流」の観光振興を推進するためにも、市民の皆様のご支援をお願いいたします。

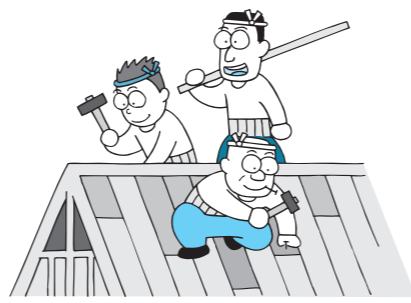
森林資源の活用を



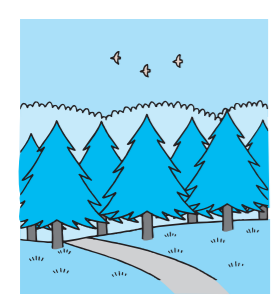
澤本 長俊 議員

問 早くから高島市の最大の資源である木材を市内外へ流通させ、高島産木材の価値を高め、資源の循環をしていくことが、山林保全にも繋がりに必要である、と当局も認識し、仕組みづくりを進めるといふことであったが、全然進んでいないように思う。現在の進捗状況は、どの程度進んでいるのか。

答 産業循環政策部長 「林業」として地域経済の中に確立していくためには、木材価格の低下等によって途切れてしまった生産者から施工者までの繋がりを再構築することが最も重要です。



このため、山側から住まい手までの関係者で構成する、「高島の木の家づくりネットワーク検討委員会」を設置し検討を重ねた結果、地域材を安定供給するための体制整備と、住



の公共工事において、利用条件を設けて利用推進するべきではないか。また県発注の工事においても、県に対し市内産木材の利用を要望してはどうか。

「林業」として地域経済の中に確立していくためには、木材価格の低下等によって途切れてしまった生産者から施工者までの繋がりを再構築することが最も重要です。

9月から11月にかけて、こうした関係者に参加を呼びかけ各種講座を開催し、年内にはネットワークを立ち上げ、まずは関係者の繋がりを構築したいと考えております。

なお、公共工事への利用は、計画中の学校施設の活用は基より、他の公共工事につきましても、供給体制の確立やコスト面等の課題解決を含め、今後関係機関と十分協議しながら推進してまいります。

高島市の農政の課題は何か



山川 恒雄 議員

問 海東市政1期4年の最終年度を来年に控え、高島市の農業政策の中で、次の各事業に対するこれまでに要した経費とその成果および問題点と課題について

答 産業循環政策部長 ①経費は2千180万円、被害があった場合に直ちに現場対応することで住民の安心感が高まったと聞いています。食肉として活用できる15%の加工処理は、全国的に事例が少なく民間業者が中心となつて施設運営が行われています。

- ①有害鳥獣駆除対策事業およびシカ処理等加工事業について
- ②地域再生マネージャー事業の中で、特に高島ブランドへの取組
- ③菜の花プロジェクトおよび雑穀作付事業とその加工事業への取組
- ④食育事業と食と農のまちづくり事業の取組
- ⑤これまでの高島の農政を検証し、今後の高島の農政の課題は何か

- ②重量野菜から軟弱野菜にシフトして安定収量・安定価格を図っていきます。
- ③持続可能な取組として行っていききたいと思えます。
- ④地域住民・学校・行政等と交流連携を図り推進活動をしていきます。
- ⑤本年度から始まった



市全域を見渡し、各種施策との連携を図りながら、透明性の高い市道整備計画を策定していきます。また、バス運行については、路線毎の利用状況を踏まえて路線の見直しを行います。

問 市の交通総合対策の問題点および課題

答 土木交通部長 ①特に市道整備の継続事業は

国の方向は担い手に集中した改革になっていますが、市は集落営農組織にもシフトすることで推進します。